

まちの話題



奈良時代の生活を思い描く



7月13日(水)に上多度小学校の3年生の児童たちが、養老鉄道養老駅の近くにある白石道遺跡(鷺巣)で発掘作業の様子を見学しました。この遺跡からは約1300年前の奈良時代のものと推測される土器などの生活用品や住居跡が数多く出土しており、そういった埋蔵文化財は当時の人たちの暮らしを読み解くうえで大変貴重な資料です。

県文化財保護センターの長谷川幸志さんが奈良時代の暮らしの様子について説明すると、児童たちは太古の人たちの生活を思い描きながら、興味津々に聴いていました。

子どもたちの明るい未来を願って



7月19日(火)に株式会社アクセス(大垣市)より、企業版ふるさと納税制度を活用いただき、100万円を寄附していただきました。同社は『継続は力なり』の精神を大切にし、継続的な地域貢献活動を行っており、これまでも当町へマスクやテントを寄附していただいています。

上田淳太郎代表取締役は「コロナ禍で子どもたちは部活などの学校生活を満足に過ごせていないと思います。日常を取り戻し、学校行事も活発になっていくことを願います」と話しました。

いただいた寄附金は、子どもが住みやすく、子育てがしやすいまちづくりのため、学校教育や子育て支援事業(養老町まち・ひと・しごと創生推進事業)に対し有効に活用させていただきます。

まちの環境と子どもたちのために



7月22日(金)に西美濃農業協同組合(大垣市)より、レジ袋削減のための有料化に伴う販売収益金10,170円と人形供養祭の参列者からの志より19,000円を寄附いただきました。例年、レジ袋の収益金を環境保全活動のために寄附していただいていたのですが、今回は、西美濃農業協同組合の斎場で行われた人形供養祭に寄せられた志の一部を町の子どもたちのために寄附していただきました。近沢一成常務理事は「町の環境保全や子どもたちのために、今後も寄附を続けていきたい」と話しました。

スポーツで地域を活性化



7月20日(水)にFC岐阜のホームゲームで養老町のホームタウンダーとして開催される試合への特別招待券100枚を株式会社大垣共立銀行より寄附いただきました。寛雅樹常務取締役は「コロナ禍ではありますが、スポーツ観戦を楽しみ、地元クラブを応援することで、地域の活性化や青少年のスポーツ振興に役立つことを願っています」と想いを話しました。いただいたチケットは、町内のサッカー少年団や中学校のサッカー部員などに配布しました。FC岐阜は県下42市町村すべてがスポンサーである唯一のクラブチームです。町民の皆さまもFC岐阜のこれからの活躍を期待し、ぜひ一緒に応援しましょう。